

## 理科・環境教育助成 成果報告書

第2回 期間：2004年11月～2005年10月

氏名：生野義員 所属：北九州市立熊西小学校

課題名：科学する心と力をもった子どもの育成

### 1. 課題の主旨

本校は平成4年度から理科教育の研究を積み重ねてきた。生活科で培った資質・能力を理科学習に発展させていく研究や、生活から始まり、学んだことを生活に生かす理科教育の推進を進めてきた。その結果、見通しをもって追究していく意欲が喚起され、実践的な態度が育ち始めている。しかし、科学的な見方や考え方の高まりには達していない。そこで、理科教育に加え、環境教育を通して、身近な自然の事物・現象を対象として、自然を追究する能力や態度、自然についての認識を形成していくことによって、確かな学力を培い、科学する心と力をもった子どもの育成を図ることとした。

### 2. 活動状況

平成16年10月 研究助成の決定

平成16年10月～平成17年3月

- ・ 16年度の生活科、理科、総合的な学習の時間の授業実践
- ・ 環境整備
- ・ ビオトープ改良計画
- ・ 16年度の生活科、理科、総合的な学習の時間の授業実践のまとめ

平成17年4月～7月

- ・ 17年度の生活科、理科、総合的な学習の時間の授業計画案立案
- ・ 環境整備
- ・ ビオトープ改良計画
- ・ 17年度の生活科、理科、総合的な学習の時間の授業実践



3年「季節と生き物のようす」で虫の観察



6年「土地のつくりと変化」で地層見学



1年「生き物  
となかよし」で  
虫の飼育



熊西ビオトープ

平成17年8月

- ・ フィールドワーク
- ・ 環境整備



夏のフィールドワーク



昆虫を飼育しているム  
シムシランド

平成17年9月

- ・ 17年度の生活科、理科、総合的な学習の時間の授業実践
- ・ 環境整備
- ・ ビオトープ改良計画、実施



ホタルの飼育



校区の川にホタルを  
放流



ビオトープ改良計画

平成17年10月

- ・ まとめと報告書作成

### 3. 結果

生活科学学習では、学校や校区の中の生き物とかかわり、育てる活動を通して、生き物が住んでいる環境を知り、自分が育てる生き物もその環境に近いものにして育てていった。これらの活動を通して、「知的な気づきを深める」ことができるようになった。

理科学習では、植物のそだち方を調べる学習や、こん虫を調べる学習において、生き物のつくりや成長について体験的な学習を多く取り入れていった。また、土地のつくりと変化の学習では、学校の近くのボーリング資料や若松北海岸の地層を調べたり、地層のでき方や地震について調べたりした。これらの活動を通して、「科学する心と力」が育ちつつある。

総合的な学習の時間では、ビオトープ改良計画として、生き物が棲みよいビオトープにするように、生き物のことを調べたり、もっと生き物が来るようなビオトープを考えたりした。また、夏休みには、3年以上の学年で、校区を対象として、フィールドワークを行った。これらの活動を通して、環境に対しての興味・関心を高めていくことができるようになった。

環境整備としては、子どもが生き物に触れることができるように、ホタルの飼育を行い、校区の川に放流した。また、ムシムシランドの中で昆虫を飼い、生き物の成長を長期間継続して観察していくことができた。

### 4. 今後の課題と発展

生活科・理科の学習を通して、知的な気づきや知的好奇心をもたせることを大事にする。そのことによって、活動に対して積極的に取り組んでいくことができる。また、校内や校区の自然を有効に活用できるように、校区の生き物マップのようなものを作成していくようにする。

総合的な学習の時間では、ビオトープを中心として、子どもがいつでも生き物と触れ合うことができるように、さらに改良を深めていく。また、この学習で学んだことを、パソコンなどを使って情報発信していくようにする。

環境整備としては、ホタルの飼育をさらに続けていき、街中でもホタルが飛ぶ姿を子どもたちに見せたい。また、ムシムシランドだけでなく、水生生物の観察もできるようなコーナーを充実させていくようにする。

### 5. 発表論文、投稿記事及び当財団へのご意見など

今回の理科・環境教育助成をいただいたことによって、子どもたちが自然や環境に対して興味・関心をもって取り組みようになりました。この活動をさらに継続していきたいと考えています。ありがとうございました。